



防災計画の策定について

## やるべきことは迅速に！

議員

水害より1年半が経過したが、防災計画の策定はどうなっているか尋ねる。

市民生活部長

市では、検証委員会からの報告を受け、地域防災計画の見直しに着手し、災害対策の本部運営と職員の初動マニュアルについて見直しを行った。現在は避難所の見直しについて作成しているところである。

議員

災害はいつ起こるかわからない中で、防災計画が完了していない。どこをどうつくり直すかを問う。

市民生活部長

実効性のある地域防災計画をつくりあげるため、職員から市民の意見等を取り入れ、市のありべき計画をつくっていききたい。実効性のあるマニュアルを備えた計画である。

議員

職員は、市民のために自分は何ができるのか。そういうことを今求められている。いつまで

に防災計画をつくるのか。新年度中には完成させる等、目標がなかったらできない。

市民生活部長

安全安心課の職員が一番早くつくりたいと思っている。さまざまな理由があるが、今後については早急につくっていききたい。

市長

今まで時間が延びている経緯は私の責任もある。市全体の合意形成を図り、早急に防災計画の工程表を示したい。

議員

ロードマップをきちんとつけて管理しないとだめ。本当に市民が安心でき、市民の安全安心を守る事ができる、そういう地域防災計画を、やるべき時に迅速につくって欲しい。



□ 殿 質 問 JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI □ 殿 質 問

## 災害に備え、県をまたいだ広域的連携



大規模火災時の消防体制について



議員

市では、糸魚川火災のような瞬時に延焼を引き及ぼす大規模火災に対し、消防体制の最大動員数、常備消防、広域連携、消防団等のすべてを含む、動員までの過程、時間等大火への備えについて尋ねる。

市民生活部長

常総広域消防本部では、火災出動態勢は3段階、西南広域消防本部も同様である。大規模な場合や応援を必要とする場合は、消防相互応援協定に基づいて他の消防本部に応援要請を行う。

第一段階は、近隣消防本部への応援要請を行う。常総広域消防本部では、西南広域消防本部・つくば市・取手市となっている。

西南広域消防本部では、常総広域消防本部・小山市・野木町・筑西広域・つくば市・野田市・埼玉東部局・館林地区となっている。それでも困難な場合、第2段階として、県内の消防本部に応援要請を行う。さらに第3段階では、緊急消防援助隊要請を行う過程となっている。

最大動員数・時間は、応援要請を受ける側の判断となる。

消防団は、水海道、石下支団女性分団の合計434人の団員がいる。出動では各支団の管轄区域の分団が出動する。被災市の消防力により、防衛が困難な場合は、消防相互応援協定に基づき、応援要請となり、協定市はそれぞれの支団併せて11市町村の構成である。

議員

県をまたいで、栃木、千葉等と広域的な連携を結んでいるということは、非常に安心した。火災というよりも、地震、水害、風害、つくばの竜巻等も踏まえ、それらを地域防災計画の中に盛り込んで、市民の皆さんの安全安心を担保して欲しい。